



東根市の水道の歩み

本市の水道事業は、昭和28年に神町上水道として給水を開始して以来、昭和30年に温泉簡易水道、昭和33年に長瀬簡易水道、昭和39年に東部簡易水道を経営して昭和43年にこれらを統合し上水道事業として発展してきました。

さらに、昭和49年には、東部簡易水道、東郷簡易水道及び、上悪戸簡易水道を統合しました。

これらの水源は、地下水（浅井戸）に依存してきましたが、水需要の増加に対応するため、昭和59年から県営村山広域水道用水供給事業より神町配水池で浄水を受水しています。

一方、自己水源である前河原、袋田水源（地下水）の鉄・マンガンによる赤水対策として、除鉄・除マンガン設備を設置すること、専用水道であった陸上自衛隊神町駐屯地を上水道に取り込む変更認可を昭和62年7月に取得しました。その後、平成15年4月に下記の理由により水道事業の変更認可を取得しました。

①給水人口の増加

近年の都市機能の充実による、人口微増傾向により計画給水人口が増加する。

(47,100人)

②浄水方法の変更

既設袋田浄水場の浄水処理方法は、自己水源の遊離炭酸を除去するために苛性ソーダを注入してありますが、維持管理面において取り扱いが煩雑であり、ランニングコストが高いため、維持管理が容易でランニングコストが安価なエアレーション処理による遊離炭酸の処理実験を行った結果、良好な結果が得られたためエアレーション処理を行う。

上記により、将来的に安定した良質な給水を確保し、新たに計画目標年度を平成23年度として事業計画を策定しました。

本市の給水能力は、袋田浄水場13,223m³/日と県営村山広域水道用水供給事業からの受水量7,777m³/日の合計21,000m³/日です。

エアレーション設備



除鉄・除マンガン設備



濃縮槽



天日乾燥床

